



難治性血液疾患に対する 最高水準の医療

当科では、疾患や患者背景によらず、すべての患者さんに最善の医療の提供を目標としている。造血器腫瘍に対し、分子レベルでの病態解析に基づいて最適な治療を選択し、実施している。また、化学療法、放射線療法に造血幹細胞移植を中心として細胞療法を積極的に組み込むことで、治療成績の向上をめざしている。具体的な取り組みは以下の通りである。

- ①同種造血幹細胞移植を中心とした、造血器腫瘍に対する根治的先進医療
- ②新規治療薬を活用した、造血器腫瘍に対する治療の開発
- ③成人T細胞白血病など標準的治療法のない造血器腫瘍に対する新規治療法の開発

代表的診療対象疾患

急性骨髄性白血病・急性リンパ性白血病・慢性骨髄性白血病・骨髄増殖性疾患・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫（ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫）・多発性骨髄腫・成人T細胞白血病・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・発作性夜間血色素尿症・HIV感染症

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

基本的にはすべてのスタッフがあらゆる造血器疾患を診療しているが、主な疾患については、専門外来を設けて患者さんや地域の先生方にもわかりやすい体制を整えた。2012年度までに、骨髄異形成症候群・造血不全、形質細胞腫瘍、成人T細胞性白血病、悪性リンパ腫、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、造血幹細胞移植、HIV感染症の8つの専門外来がスタートしている。

2014年度の1日平均外来患者数は68人で、初診率は4.7%であった。2003年に外来化学療法部が開設され、悪性リンパ腫に対する標準的な化学療法を中心として骨髄抑制が高度でない治療を外来で施行し、入院期間の短縮、入院患者総数の増加に寄与している。また、同種造血幹細胞移植に関しては、ドナー専門外来を設置し、ドナーの安全性を十分確保する体制を敷くと同時に、2012年7月より移植後フォローアップ外来を設置し、病棟看護師による移植後患者の重点的ケアを行って

いる。2008年よりエイズ中核拠点病院となり、HIV感染症専門外来を設置している。

入院診療体制と実績

造血器疾患を対象に診療する科としては、46床という国内でも有数の病床数を有している。2014年度の延べ入院患者数は369人、平均入院日数32.2日、病床稼働率は81.5%であった。特に、同種移植を34回、自家移植を10回と、造血幹細胞移植を積極的に行っている。

臨床研究の取り組み

多様な臨床試験を推進

- ＊再発・難治性の成人T細胞白血病に対し逆転写酵素阻害薬であるアバカビルの有効性および安全性を検討する医師主導治験を、2015年より多施設共同で開始予定である。
- ＊難治性の造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植に積極的に取り組んでおり、様々な臨床試験に参加している。2014年からは、同志社女子大学との共同研究として、「造血器悪性腫瘍における用量調整静注ブスルファンを含む前処置を用いた同種造血幹細胞移植の有用性の検討」の臨床試験をおこなっている。

- ＊多発性骨髄腫に対して、2013年より「未治療移植適応多発性骨髄腫患者を対象にしたボルテゾミブを用いた寛解導入・地固め・維持療法および大量抗がん剤併用自家末梢血幹細胞移植の安全性と有効性の検討：臨床第Ⅱ相試験」を行っている。
- ＊2013年より日本成人白血病治療共同研究グループ（JALSG）、日本造血細胞移植学会、および日本細胞移植研究会（JSCT）による多施設共同臨床試験に参加している。